

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072100645		
法人名	有限会社すわ福祉ネット		
事業所名	グループホーム さちの里		
所在地	群馬県高崎市金古町987-1		
自己評価作成日	令和6年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和6年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、住宅街と田畑が周囲にある静かな環境に立地している。草木や樹木が植えられており、ホーム内に居てもお花見ができたり、柿やみかんが取れて食卓に並べられたりすることもある。また、日常、介護予防の為、毎日、ラジオ体操を始め北国体操や365歩のマーチ体操を行っている。また、集団リハビリ、個人リハビリにより下肢筋力の低下予防やリズム体操などで気分転換も図られている。だが、現在は、車椅子利用の入居者が多いので外出行事や散歩が以前より減っているのが現状です。でも、入居者は全員女性ばかりなのでいつもおしゃべりに花が咲いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が居心地良く、ここに来てよかった、ここに「幸」があると思ってもらえるように、毎日誰にでも声をかけるようにしている。食事での実践では、飲み込みが悪くなってきても、利用者全員が季節の果物を食べられるように、庭で採れたみかんはジュースにしたり、柿はコンポートにして柔らかくしたり、また、個々の状況を見ながら、少しでも食事が増えるように利用者の好きなうどん汁を味噌汁代わりに添えるなどして、工夫をしている。その他、「ホーム喫茶」として月に一度手作りの日を実施し、普段と違う雰囲気ですぐに食事が楽しめるようにしている。職員同士の風通しが良くなるように管理者が声をかけ、業務の合間に気持ちを聞いたり、利用者の対応方法を常に相談したりしながら、支援をしている。そうしたなか、身体拘束をやむを得ず実施した場合は、期間を設けて早期に外すことを目標に意思統一し、ケアに努めている。居室や共有空間が明るくなるように窓が大きく作られ、北側の部屋からは、畑が見えるだけでなく、季節がわかるように福寿草などの草花を植えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者が地域の一員として生活できるように運営理念の中に規定している。全てのスタッフは、その理念を共用して生活を支援している。	設立時に、創設者や管理者が一人ひとりに寄り添った介護をしたいという気持ちをこめ理念を作成した。毎日の申し送り時や月1回の職場会議で日々のケアを「ケアワーカーの心得」とともに、理念をもとに振り返り、されて嫌なケアはしないように、利用者には出来ることをしていただくよう実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症予防のため現在は、閉ざされているが少しずつもどつつある。	管理者が地元出身のため、地域住民とは顔見知りであり、事業所も一員として交流をしている。コロナ禍前は、子供神輿の休憩所提供や、近所の方と場面場面で交流ができていたので、再開を検討している。現在は散歩時などに農作業をしている近隣の方と挨拶を交わしたり、回覧版で認知症相談のお知らせを行ったりしている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個々の相談に対応している。また伴走型認知症相談にも参加して当番日には対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症予防のため昨年は一度も開催できませんでしたが、今年度は開催し、意見を聞くことが出来ている。	R5年7月より対面での会議を開催している。区長、民生委員、群馬支所や安心センター職員、家族代表、事業所職員が参加し、毎月の生活目標や活動状況、利用者の状況を報告している。また、避難訓練時に利用者が名札を持つことや持ち物について意見や感想をもらい、今後の参考にしていく。	活発な意見交換が行われているので、会議の内容の共有を図る機会づくりを検討し、今後も継続して意見や要望がもらえる機会とすることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	消防署との連携、介護保険担当者との連絡及び調整に取り組んでいる。	対面開催出来ない間は、支所や安心センター職員との関係が途切れないように、事業所や利用者状況について書面で詳細に報告してきた。また、介護保険の更新などの手続き時に行ったり、空き状況の問い合わせや困難事例の入居の相談を受けたりして、顔が見える関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で学習の機会を設け周知を図っている。	昨年11月の運営推進会議で、身体拘束適正化に関する指針を用いて説明し意見交換をした。安全のためやむを得ずベット周りに柵を使う利用者に対して、毎日の申し送り時に実施状況や必要性を振り返り、早期に解除ができるように工夫をしている。また、年2回の研修では、拘束されている立場の視点で考えられるように学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で学習の機会を設け周知を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で学習の機会を設け周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章と口頭にて十分な説明を行い、承諾も得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情の窓口(苦情箱も含む)を設置している。また、契約時に他の苦情窓口も紹介している。また、月一支払い時や電話等で意見を聞いている。	相談・苦情の窓口は管理者であるが、職員や外部者にも表せるように家族へ説明している。家族が利用料支払いの来所時に、要望を聞いている。運営に関することはほとんどないが、利用者の生活の支援に関する要望に、可能な限り反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度の始めに抱負やチームケアの在り方などの意見を書面に書いてもらい、個別に意見を聞く機会を設けている。職員会議や個別に意見や提案を聞く機会を設けて運営に反映させている。	月1回の職員会議や毎日の申し送り時の他、管理者は業務の合間に個々の職員に声をかけ、個別に話を聞いたり、職員全体から意見を聞いたりしている。そうしたなか、新しい車いすへの入れ替え、入浴回数の職員負担、ケア時間の調整、困難事例の対応などについて意見があがり、改善に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、各職員が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備・向上に努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で研修を受ける機会を設けている。毎朝、ケアワーカーとしての心得を読むことでケアの方向性を確認、周知するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所間による伴走型認知症相談に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネを中心にアセスメントを行い、生活上の課題・問題を把握し、そこからの要望等を尊重しながら良好な人間関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントで得られた情報・課題を把握し、家族の思いを尊重した関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の面接時に確認できた課題に対して、課題の解決に向け、他のサービス利用も含めた相談・援助活動を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が生活の中心であると認識し、生活を支えあうような人間関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との対話を密にし、要望・ニーズを受け入れ、協働で入居者を支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防のため短時間面会、少人数でのソーシャルディスタンス面会を行っている。	家族との関係が途切れないように家族限定で、短時間の面会を行っている。また、行事や誕生日などの写真と活動状況を家族に渡している。職員の交代はほとんどないため馴染みの関係が出来ており、以前の思い出話などをして利用者と一緒に懐かしむ時間を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がお互いを尊重し、楽しく生活できるような人間関係を調整している。グループワークやレクリエーション等の集団活動で支え合いが認められている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談・援助活動を行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや気持ちを把握して生活を支援している。訴えが困難な場合でも、入居者の視点に立ってニーズの把握に努めている。	体操前やトイレ時、入浴時、お茶の時間などゆっくりする時間に、できる限り多くコミュニケーションを取っている。居室で休んでもらう時などにも、声をかけている。難聴がある場合には、耳元で話す、ゼスチャーを使う、目線の高さでゆっくり話すなど工夫して、思いを把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らし・介護情報を把握し、生活を支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康面・生活内容・心身の状況等を多面的に把握し、それを記録化している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の来訪時には、暮らしぶりを報告し、意見や要望を伺い反映させるようにしている。また、介護計画の作成過程にスタッフの意見・アイデアも入れている。	「ケアプラン検討記録」に職員の気付きを記録し、モニタリングに活かしている。月1回モニタリングを行い、3ヶ月毎に本人・家族の要望を聞いている。介護記録をもとに月1回の職員会議で話し合い、本人・家族に説明している。変化がない場合のアセスメントは、年1回行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活内容をIPADに個別記録に具体的に記入している。業務日誌・介護記録を活かし、口頭と文章で情報の伝達を行い、ケースによってはカンファレンスを行ったり、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症介護の実務を活かした相談・援助活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民・民生委員・ボランティア・消防署等より協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望されるかかりつけ医を継続できるように支援している。	入居時にかかりつけ医の希望を確認し、現在はほとんどの利用者が訪問診療を受けている。訪問診療以外の受診は原則家族対応だが、困難な時は、管理者が支援をしている。受診時の利用者の状態や受診結果は、職員と家族で情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護職と情報交換を行い、助言を受けながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と家族、ホーム側で早期退院に向けて十分な話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の介護については、本人や家族の希望を尊重し介護を行う旨を説明している。	入居時に延命治療の希望を聞き、看取りの方針について説明をしている。利用者の状態の悪化など、状況に応じて家族と相談し、特別養護老人ホームへの入居申請など支援している。病状の悪化の際は、訪問診療の医師から家族へ今後の治療方針などを説明してもらい、本人・家族の自己決定の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内においても学習の機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ感染予防の為、昨年、今年は消防署の立会いは中止したが、定期的に防災訓練を実施している。	年2回利用者、職員で防災訓練を実施している。今年度の1回目は運営推進会議に合わせて実施し、参加したメンバーに視察をしてもらい、意見を今後の訓練に活かしていく予定である。今年度の2回目では、停電や断水を想定した訓練を予定している。近隣の方には、避難時の利用者を見守るために協力をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の思いや訴えを否定せず共感し、傾聴している。(その場も考慮しながら)また、過ちについても指摘せず、自らが気づけるよう導いている。	自分がされて嫌なことはしないように配慮している。その方にあった話しかけ方を心がけ、手をさすったり、安心できるようにスキンシップをとったりしている。排泄時の声かけは大きな声でせず、またカーテンやドアを閉め、個室の環境にして、安心できるように支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉が表出しやすいように支援している。(せかさない・繰り返し聞く等)言葉で表出できないような場合は、入居者の態度・表情より意思を汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に対して、過ごし方等を問いかけて活動を決定するようにしている。集団活動を強要していない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自主性を尊重しながら、一人一人に応じた身だしなみ・おしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に応じて、テーブル拭き・配茶・下膳に参加している。また、「いただきます」「ごちそうさまでした」の号令を順番で言っている。	食材業者の献立メニューを使用しているが、利用者の希望を取り入れられるように、毎週日・月曜日は管理者がメニューの作成と買い物をしている。利用者が食事を飽きずに楽しめるように、リクエストを取り入れたり、ちらし寿司など色合いや視覚で楽しめる食事、季節にあわせておはぎなどを提供したりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部の栄養士による献立にて食事を提供している。一人一人の能力に応じて、食事内容も調理・介助している。水分確保においても、適量を摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に応じた口腔ケアを行っている。夕食後には、入れ歯洗浄剤にて入れ歯の管理をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄が行えるように、定時及び随時にトイレ誘導し介助を行っている。夜間にオムツを使用している入居者も日中はオムツを外している。一人一人の排泄パターンや習慣を把握し対応している。	昼間は全員をトイレに誘導している。日々の記録から利用者の排泄パターンを把握し、個々に合わせたタイミングの他、食事の前後、リハビリの後などにも声掛けをしており、利用者が失敗しなかったときは利用者と職員で喜び合っている。リハビリパンツの着用ができるよう立位訓練を実施している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄状況を把握し、日頃より水分摂取・運動・食事内容等により便秘の予防に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望やタイミングに合わせてゆっくり入浴を楽しめるように支援している。	週2回を入浴日と決めて、支援をしている。身体が汚れた時は、その都度シャワー浴を実施し清潔に過ごせるようにしている。入浴を嫌がる方は、仲の良い利用者に誘ってもらい、二人で入浴をしたり、入浴が楽しめるよう季節のゆず湯なども行ったりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を考慮したり、安眠や休息が取れるように支援している。(寝具等の調節も含む)また、眠気や要休息等の状況にも随時、安眠・休息等の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況が把握出来るようファイルにしてある。また、適切に服薬出来るよう常に複数名で介助を行っている。体調面の変化も常時、観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が何らかの役割が持てるよう支援している。活動後賞賛し喜びが得られるよう対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者の希望により散歩の機会を多く取り入れている。現在は、新型コロナウイルス感染症予防のため外食は、出来ていない。	日常的な散歩の他、初詣、花見、バラ園、紅葉狩りなどの年間行事計画を作成し、利用者の希望を聞き、支援をしている。外出時には利用者全員が参加できるように、数回に分けて現地に連れて出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者より金銭を所持したい意思があれば家族と相談し、所持を援助している(少額)。現在は、外出出来ないのではお金を使える機会がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望により電話や手紙のやり取りを援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関に花が生けられている。季節に応じて貼り絵などを壁面に飾ったりもしている。外の景観を楽しめる環境になっている。快適な環境で過ごせるよう随時、換気、加湿調整も行っている。	外の様子が見え、明るい部屋になるように、窓が大きく作られて、季節が感じられ、利用者に和んでもらおうと、庭の周囲に植木や草花を植えている。玄関には行事の際の写真にコメントを入れ、来所した家族に雰囲気が伝わるように配慮をしている。落ち着いて過ごせるように採光や湿度、音、臭気にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人がホール席にて思い思いに過ごしたり、数カ所のソファでも自由に過ごしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や調度品等が持ち込まれている。入居後の趣味活動の作品を飾ったりもしている。	年の初めには利用者と一緒に1年の目標をたて、居室に続く廊下の前に掲示をしている。自室がわかりやすいように入り口に表札をつけ、災害時の避難時に使用する名札や紙花が準備されている。居室内には、位牌や家族の写真、趣味の編み物などがあるほか、枕や毛布など使い慣れたものがあり、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の動作能力を活かせるようにしたり、転倒等の事故を予防したり、安全に配慮した環境作りに配慮している。		